



2022年3月期 第3四半期決算説明資料

小野建株式会社

- 1 2022年3月期3Q連結決算の総括、連結損益計算書
- 2 販売管理費、連結貸借対照表、セグメント別業績
- 3 品種別販売状況
- 4 設備投資
- 5 株主還元、今期業績予想について

将来の見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

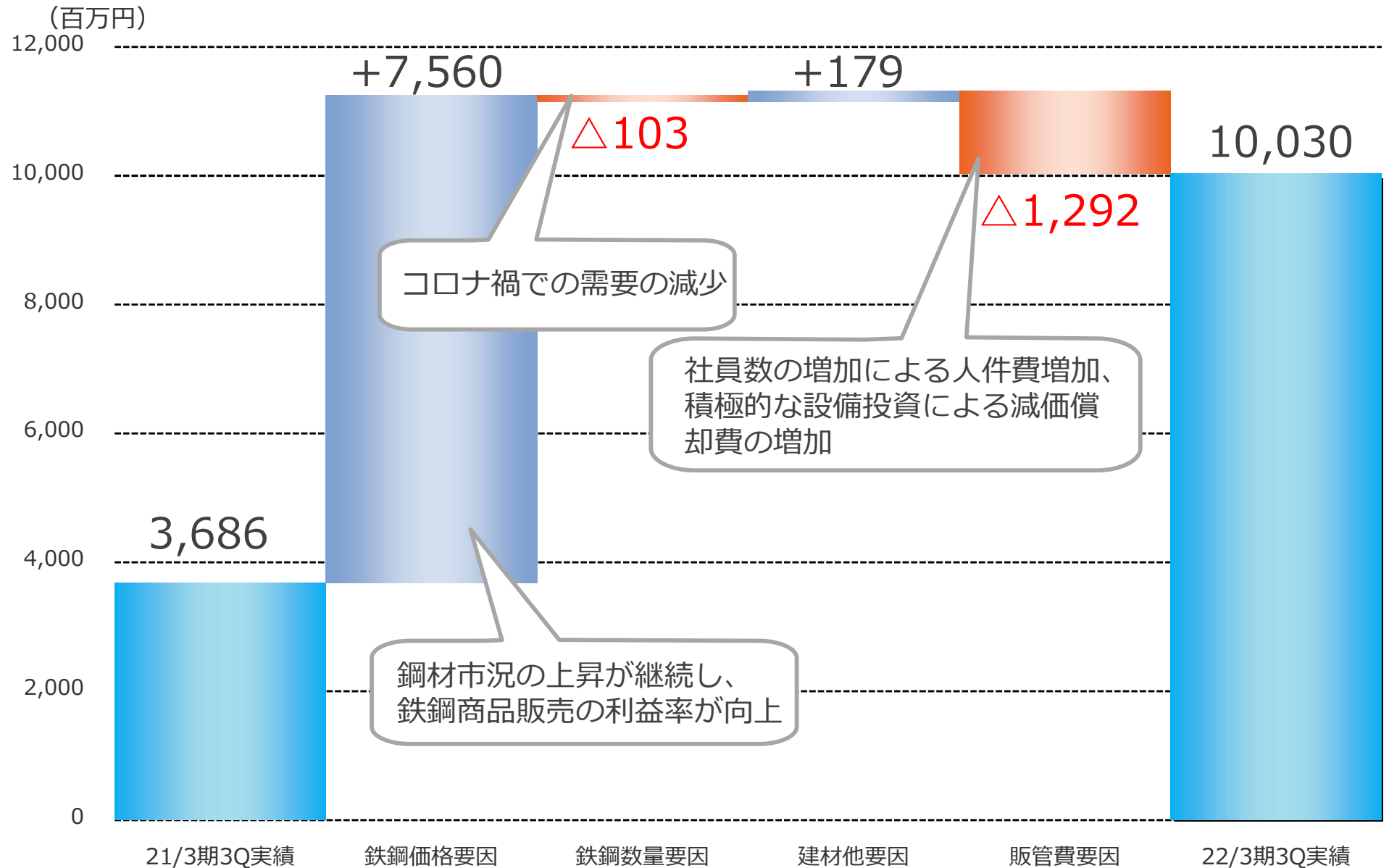
2022年3月期3Q総括 前々期および前期との差異（連結）

	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	22/3期 3Q実績	(百万円) 前年同期比	
				増減	増減率
売上高	167,641	143,534	162,566	+ 19,032	+ 13.3 %
売上総利益	14,177	13,464	21,100	+7,636	+ 56.7 %
営業利益	4,068	3,686	10,030	+ 6,344	+ 172.1 %
経常利益	4,223	3,870	10,161	+ 6,291	+ 162.6 %
親会社株主帰属 当期純利益	2,820	2,566	6,848	+ 4,282	+ 166.8 %

売上高は3期ぶりの増収、四半期純利益は4期ぶりの増益

※22/3期 期初から新会計基準を適用の為、前期比増減率は参考値

2022年3月期3Q総括 営業利益/前年同期比変化要因（連結） **ONOKEN**



損益計算書（連結）

(百万円)

	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	22/3期 3Q実績	前年同期比 増減率	22/3期 通期計画	前期比 増減率
売上高	167,641	143,534	162,566	+ 13.3 %	216,998	+ 7.0%
売上原価	153,463	130,070	141,466	+ 8.8 %	190,495	+ 4.1%
売上総利益	14,177	13,464	21,100	+ 56.7 %	26,503	+ 33.2%
販売費及び一般管理費	10,109	9,778	11,070	+ 13.2 %	15,359	+ 14.7%
営業利益	4,068	3,686	10,030	+ 172.1 %	11,144	+ 71.1%
営業外収益	241	245	208	△ 15.1 %	246	△ 15.2%
営業外費用	86	61	77	+ 26.2 %	36	△ 57.6%
経常利益	4,223	3,870	10,161	+ 162.6 %	11,354	+ 69.0%
特別利益	14	21	172	+ 719.0 %	0	—
特別損失	83	29	—	—	34	+ 25.9%
税引前当期純利益	4,154	3,862	10,334	+ 167.6%	11,320	+ 67.8%
法人税等事業税	1,334	1,284	3,329	+ 159.3%	3,540	+ 60.3%
親会社株主当期純利益	2,820	2,566	6,848	+ 166.8%	7,623	+ 69.1%

※通期 過去最高益の計画

※22/3期 期初から新会計基準を適用の為、前期比増減率は参考値

販売管理費（連結）

(百万円)

	20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	22/3期 3Q実績	前年同期比 増減率	22/3期 通期計画	前期比 増減率
販売費及び一般管理費	10,109	9,778	11,070	+ 13.2 %	15,460	+ 15.4%
運賃	3,271	2,983	2,995	+ 0.4 %	4,176	+ 5.1%
貸倒引当金繰入額	27	△53	37	—	42	+ 950%
人件費	3,644	3,537	4,218	+ 19.3 %	5,946	+ 24.1%
租税公課	373	354	414	+ 16.9 %	629	+ 24.1%
減価償却費	994	1,225	1,546	+ 26.2 %	2,135	+ 26.0%
その他	1,800	1,732	1,860	+ 7.4 %	2,532	+ 4.6%
売上原価内の減価償却	389	365	338	△ 7.4 %	395	△ 9.8%

22/3期

- ・各拠点における加工設備増強、熊本支店・北陸営業所拡大移転および小倉支店倉庫増設による減価償却費の増加

貸借対照表（連結）

※主要項目のみ記載しております	20/3期 実績	21/3期 実績	22/3期 3Q実績	増減額	増減率(百万円)
流動資産	100,013	86,319	105,171	+ 18,852	+ 21.8 %
現金及び預金	5,292	5,132	7,695	+ 2,563	+ 49.9 %
売掛債権その他	62,791	53,958	70,561	+ 16,603	+ 30.8 %
商品及び製品、原材料及び貯蔵品	21,411	19,384	25,201	+ 5,817	+ 30.0 %
前渡金	10,382	7,472	—	△ 7,472	—
固定資産	53,584	57,773	59,054	+ 1,281	+ 2.2 %
有形固定資産	50,911	55,024	56,595	+ 1,571	+ 2.9 %
資産合計	153,598	144,092	164,225	+ 20,133	+ 14.0 %
流動負債	75,628	62,305	77,443	+ 15,138	+ 24.3 %
支払手形及び買掛金・電子記録債務	41,766	37,288	45,663	+ 8,375	+ 22.5 %
短期借入金	22,250	14,150	25,150	+ 11,000	+ 77.7 %
前受金	6,170	5,185	—	△ 5,185	—
固定負債	7,809	7,839	4,931	△ 2,908	△ 37.1 %
社債	6,029	6,023	3,139	△ 2,884	△ 47.9 %
長期借入金	34	—	—	—	—
負債合計	83,437	70,145	82,375	+ 12,230	+ 17.4 %
株主資本	70,077	73,453	81,065	+ 7,612	+ 10.4 %
純資産合計	70,160	73,947	81,850	+ 7,903	+ 10.7 %
負債・純資産合計	153,598	144,092	164,225	+ 20,133	+ 14.0 %

セグメント別業績推移(連結)

(百万円)

		20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	22/3期 3Q実績	※22/3期 通期計画
九州・中国 エリア	売上	97,386	84,483	87,261	123,644
	営業利益	2,693	2,504	3,825	5,620
関西・中京 エリア	売上	39,063	31,846	39,090	53,995
	営業利益	712	636	2,379	2,534
関東・東北 エリア	売上	31,190	27,205	36,214	45,327
	営業利益	594	499	3,889	3,938

売上高は「外部顧客への売上高」を記載

() 内は在庫評価損を記載

※通期計画は連結消去なしで記載の為参考値

品種別販売状況（小野建単体）

（百万円・千トン・％ 単価は円/Kg）

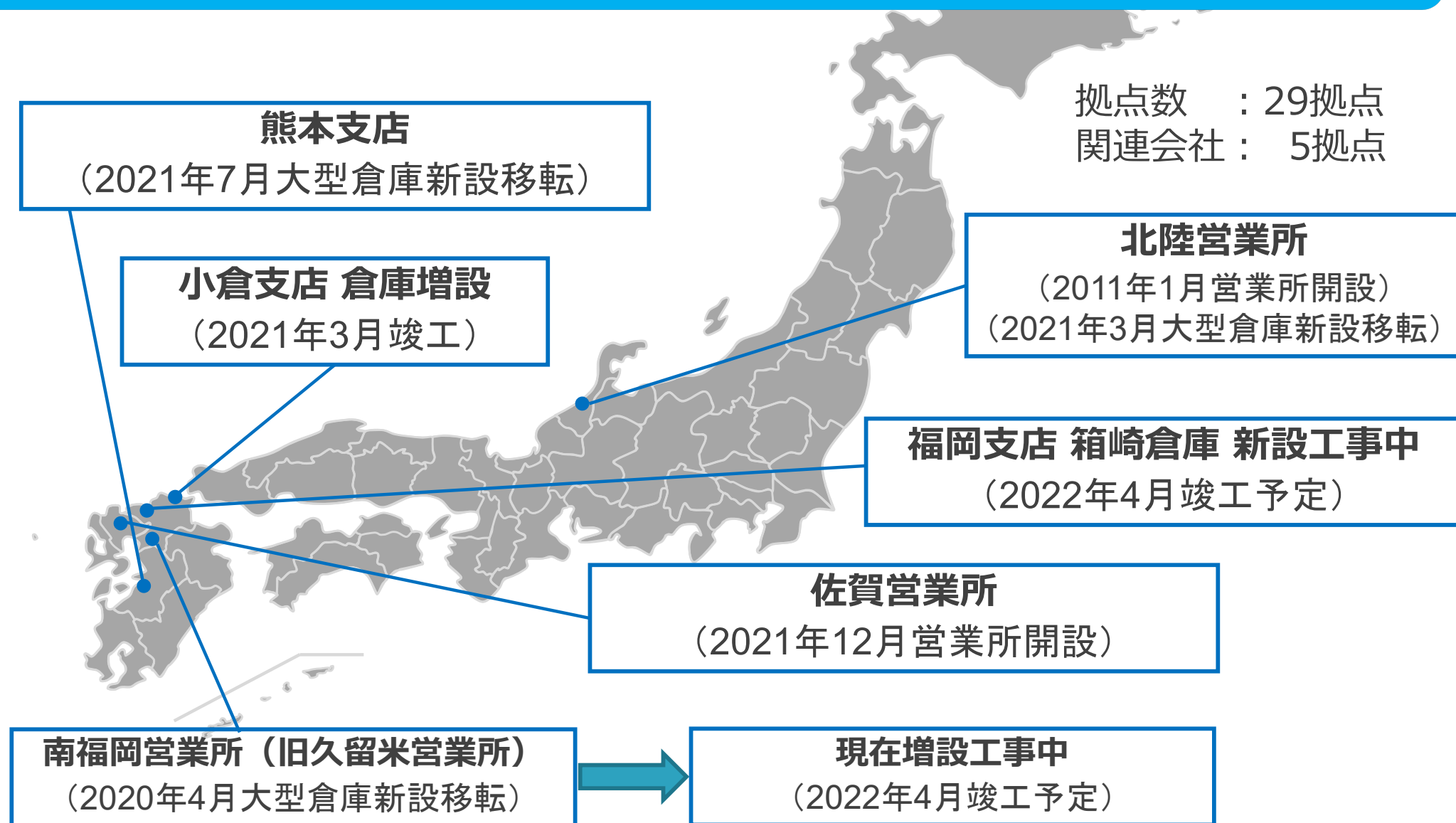
		20/3期 3Q実績		21/3期 3Q実績		22/3期 3Q実績		前年同期比 増減率	22/3期 通期計画		前期比 増減率
鉄鋼商品販売事業	鋼板類売上	41,989		33,102		44,493		+ 34.4 %	55,258		+26 %
	販売数量・単価	499	84.15	431	76.80	424	104.94	△1.6 %	526	105.05	△6.7 %
	売上総利益	2,824		3,105		5,809		+87.1 %	6,926		+55.0%
	利益率	6.7		9.4		13.1		+3.7 P	12.5		+2.3 P
	条鋼類売上	57,409		46,356		50,580		+9.1 %	67,956		+10.1%
	販売数量・単価	545	105.34	485	95.58	439	115.22	△9.5 %	608	111.77	△5.6 %
	売上総利益	5,969		5,307		8,112		+52.9 %	10,131		+34.5%
	利益率	10.4		11.4		16.0		+4.6 P	14.9		+2.7 P
	丸鋼類売上	22,554		16,916		20,845		+23.2 %	28,866		+28.0%
	販売数量・単価	302	74.68	248	68.21	246	84.74	△0.8 %	348	82.95	+8.1 %
	売上総利益	1,026		929		1,115		+20.0 %	1,413		+11.1%
	利益率	4.5		5.5		5.3		△0.2 P	4.9		△0.7 P
小計	売上高	121,952		96,374		115,918		+20.3 %	152,080		+18.7%
	販売数量・単価	1,346	90.60	1,164	82.80	1,109	104.52	△4.7 %	1,482	102.62	△3.1%
	売上総利益	9,819		9,341		15,036		+61.0 %	18,470		+39.2%
	利益率	8.1		9.7		13.0		+3.3 P	12.1		+ 1.7 P

品種別販売状況（小野建単体）

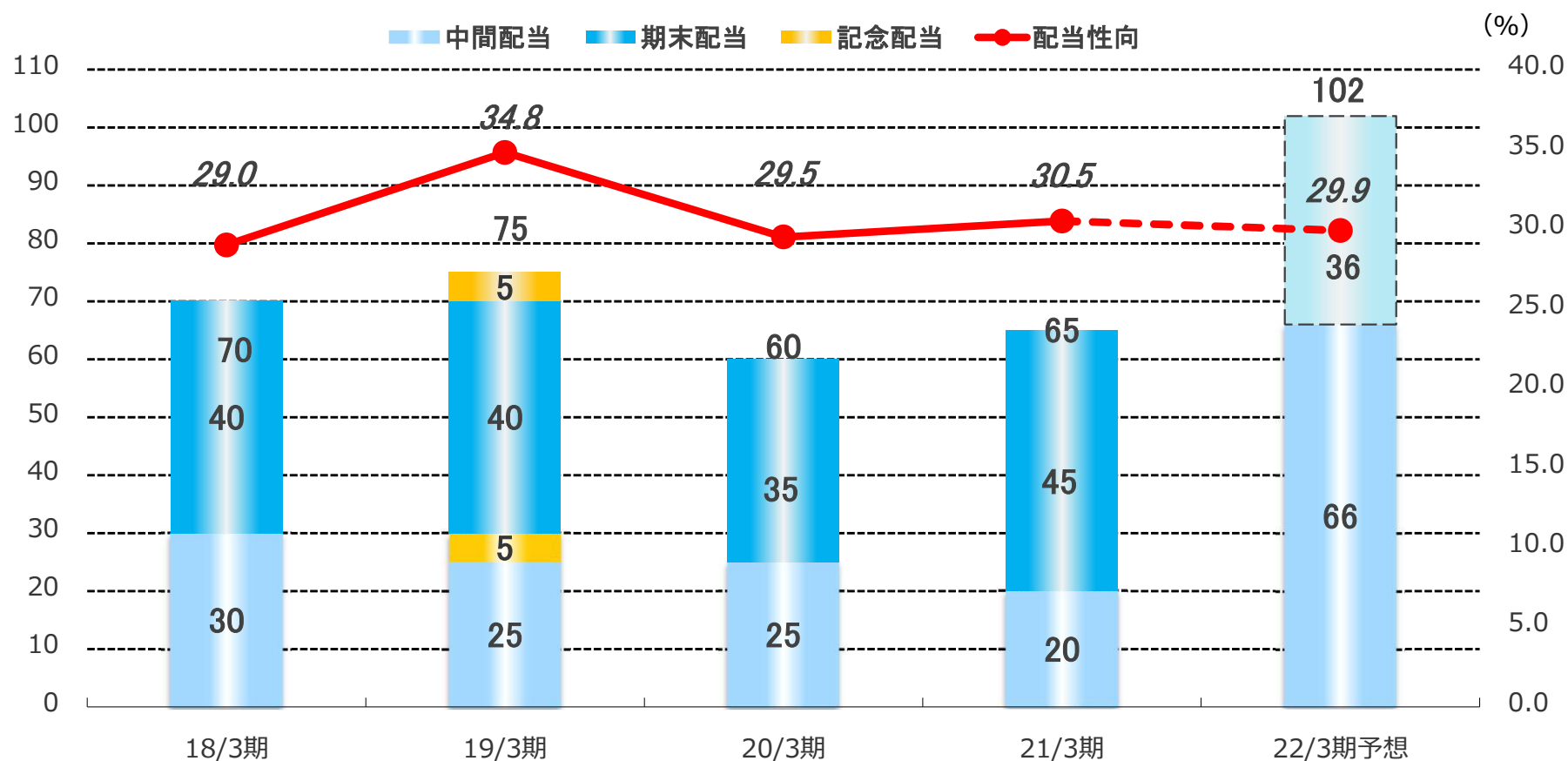
(百万円)

		20/3期 3Q実績	21/3期 3Q実績	22/3期 3Q実績	前年同期比 増減率	22/3期 通期計画	前期比 増減率
販売事業 建材商品	建設機材商品売上	10,978	11,113	8,854	△ 20.3 %	13,889	△ 6.6%
	売上総利益	519	499	442	△ 11.4 %	692	+ 2.4%
	利益率	4.7	4.5	5.0	+ 0.5 P	5.0	+ 0.5 P
工事事業 工事請負	建設機材工事売上	22,758	24,916	22,642	△ 9.1 %	31,037	△ 29.8%
	売上総利益	1,889	1,817	2,153	+ 18.5 %	2,825	△ 13.6%
	利益率	8.3	7.3	9.5	+ 2.2 P	9.1	+ 1.7 P
等事業 不動産賃貸	その他事業収入	548	520	515	△ 1.0 %	673	△ 3.3%
	売上総利益	355	340	349	+ 2.6 %	455	△ 0.7%
合計	売上高	156,236	132,923	147,929	+ 11.3 %	197,679	+ 5.2%
	売上総利益	12,582	11,997	17,980	+ 49.9 %	22,442	+ 27.0%

中長期的に各地域に根差し、地域と共に発展する全国ネットワーク企業を目指す



業績連動ながら連結配当性向30%を基本に安定かつ 高い水準の利益還元を継続



◆環境

- ・ コロナ禍での経済活動は徐々に回復してきており、需要は不確実な要素が多分にあるものの、年度末に向けて回復傾向となる見込み
- ・ 鉄鋼商品市況は直近、強含みで推移しているものの、更なる値上げに対しては、今後の国内外の状況に不透明感が残る

※今後の需要・市況状況に不透明感があることにより、今回業績予想の修正は行わず

◆業績予想前提

- ・ 需要の回復は年度末近くにずれ込む見通しであり、鉄鋼商品の販売数量は当初予想並みで推移
- ・ 鉄鋼商品市況は強含みで推移するが、仕入価格の上昇により在庫単価は切り上がっており、利益率は低下傾向
- ・ 建材商品販売は下期にずれ込んでいるが、ほぼ順調に推移
- ・ 工事請負事業において、大型案件は順調に推移しているものの、直近では中・小型案件が低調に推移
ただし、年度末にかけて案件数は回復傾向となる見込みで、来期に向けて受注量は増加傾向となる



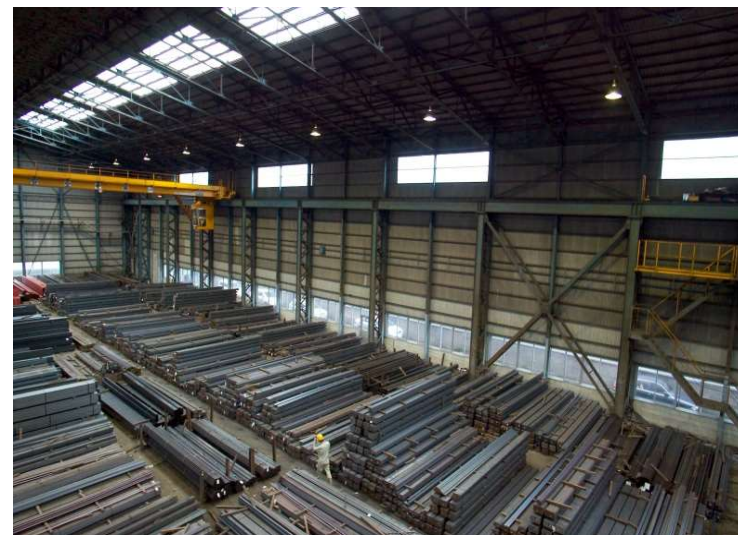
基礎資料

ONOKEN

商号	小野建株式会社
設立	1949年8月
代表者	小野 建
資本金	42億9,980万円
連結売上高	2,028億2,500万円
従業員	838 人(連結)
上場取引所	東京①・福岡(7414)
本社	福岡県北九州市
業種	鉄鋼・建材流通商社
主な事業内容	鋼材の販売・加工 土木建築材料の販売 土木建築工事の請負



小野建株式会社本社 小倉支店

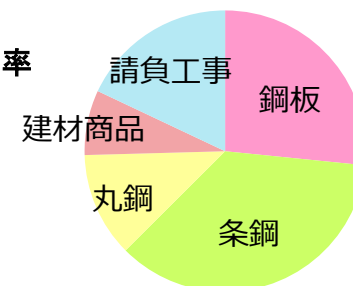


小倉支店 倉庫内

(2021年12月31日現在)

取扱品種

売上比率



鉄鋼商品

鋼板

鉄を板状にしたもの
工事現場の敷板等に使われる



条鋼

型鋼とも呼ばれ、色々な形に
成形したもの
建物の骨組等に使われる



丸鋼

鉄を丸い棒状にしたもの
建物の基礎等に使われる



建材商品

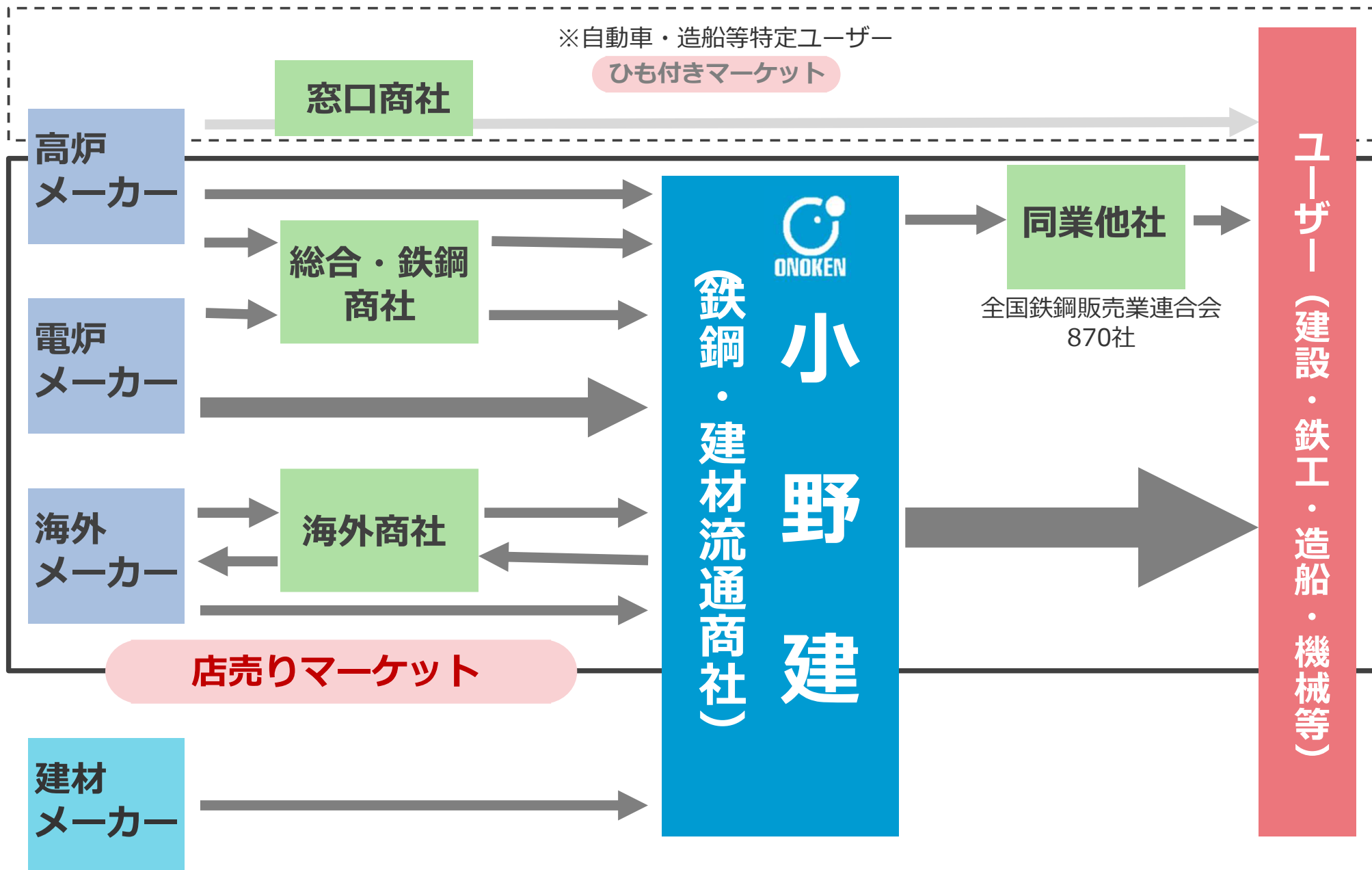
土木・建築工事に
使用される材料
鋼矢板・屋根・
フェンス・サッシ
等
写真はフェンス、
鋼矢板



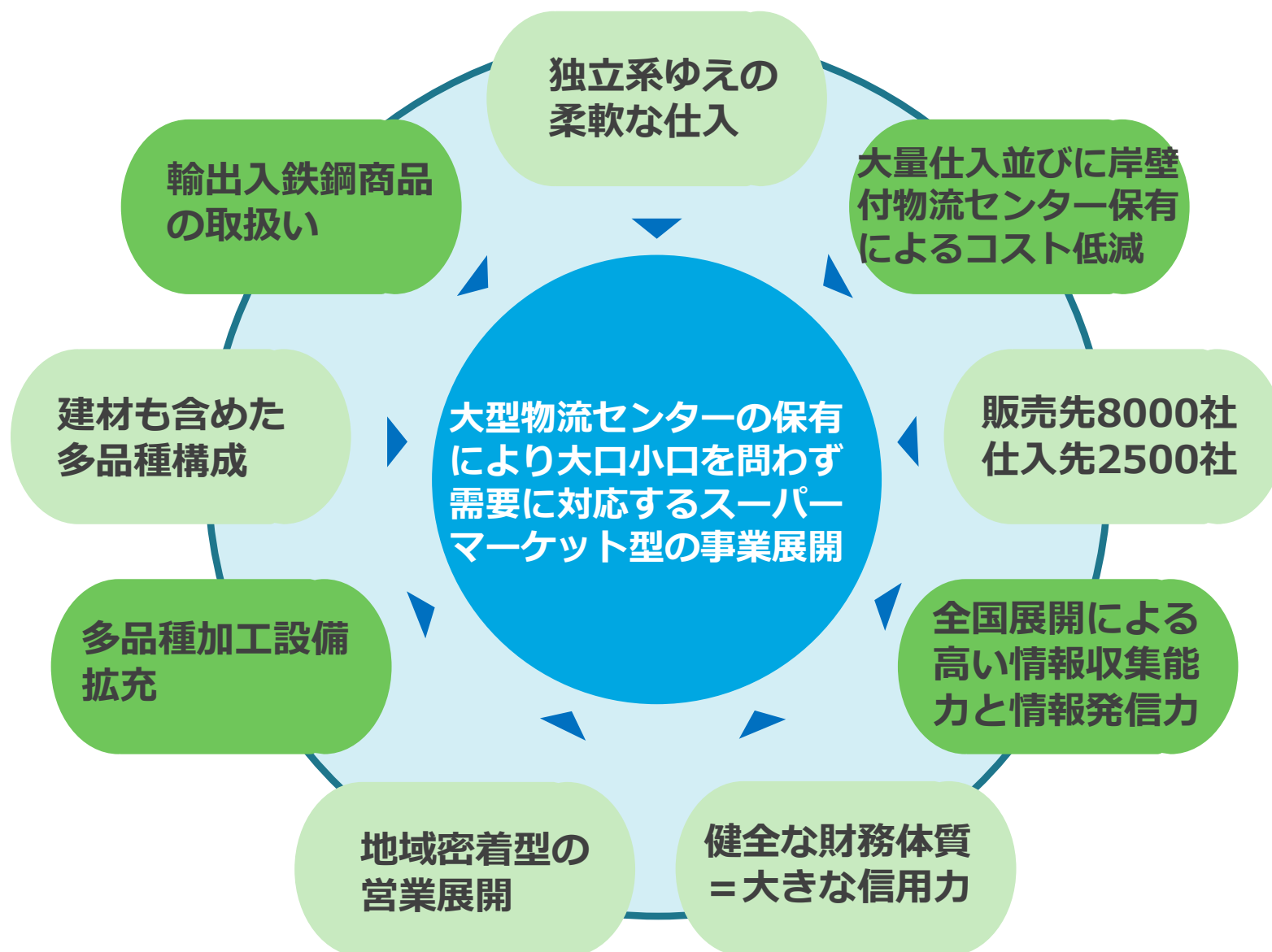
工事請負

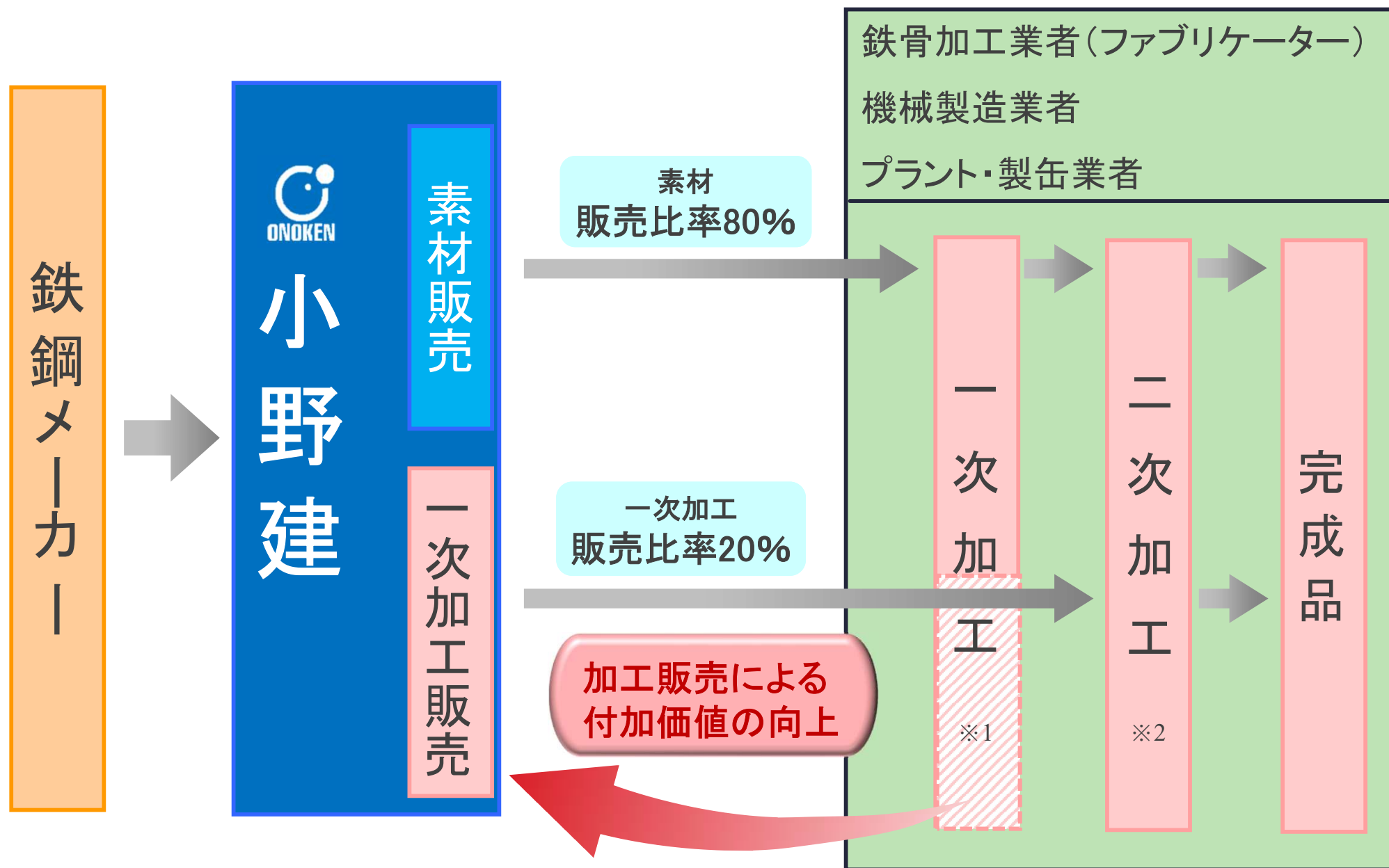
鉄骨工事
屋根工事
外壁工事
サッシ工事
杭工事 など





物流センターを活用した「鉄と建材のスーパーマーケット」



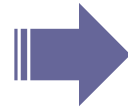


※1一次加工・・・素材を販売ニーズに合わせ、切断・穴あけ等の加工

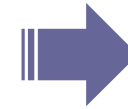
※2二次加工・・・一次加工品に組立・溶接・塗装等の加工

付加価値向上により鉄鋼市況の影響を受けにくい商品の取扱拡大

加工前の
H形鋼

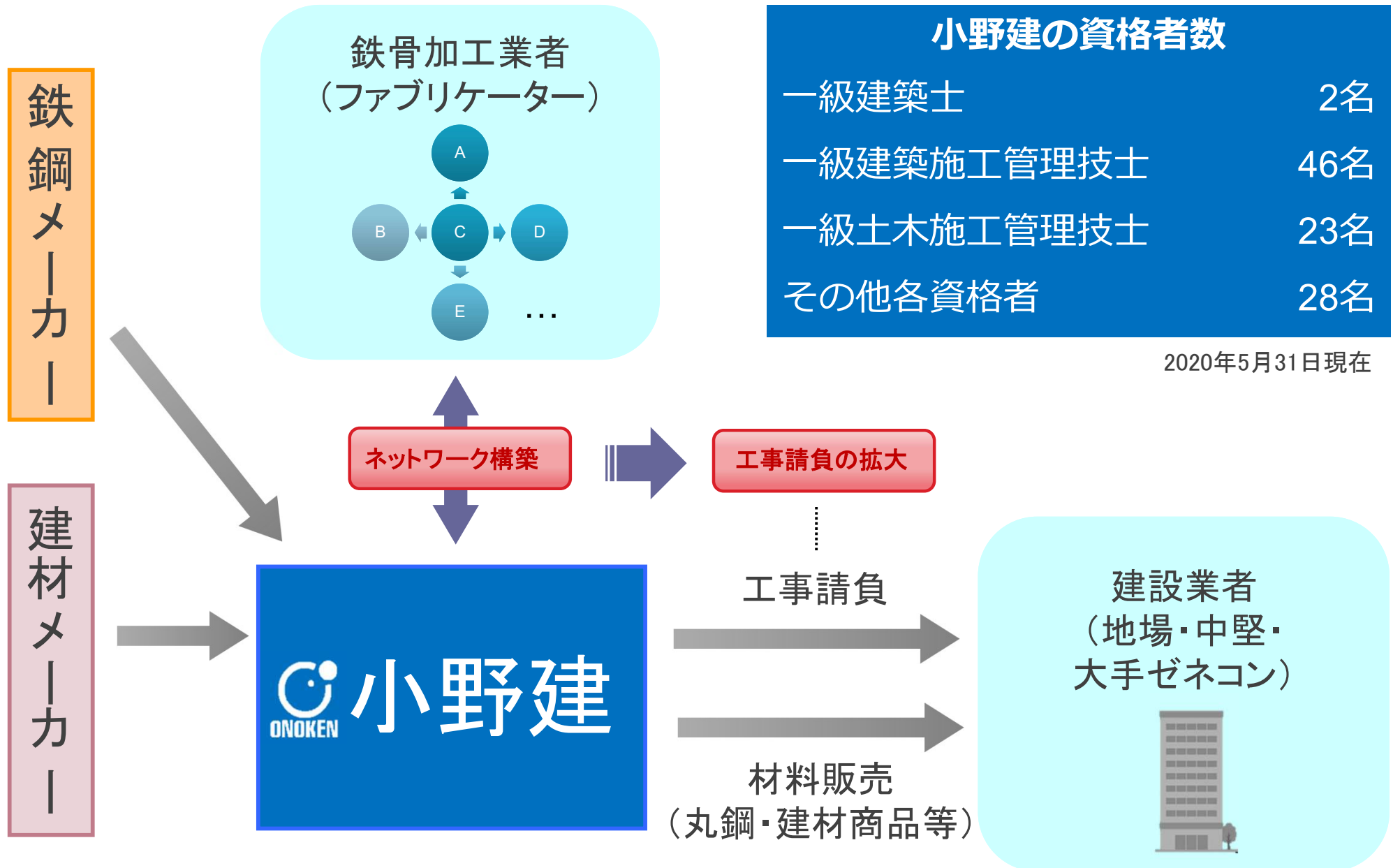


加工機にて
切断・穴あけ



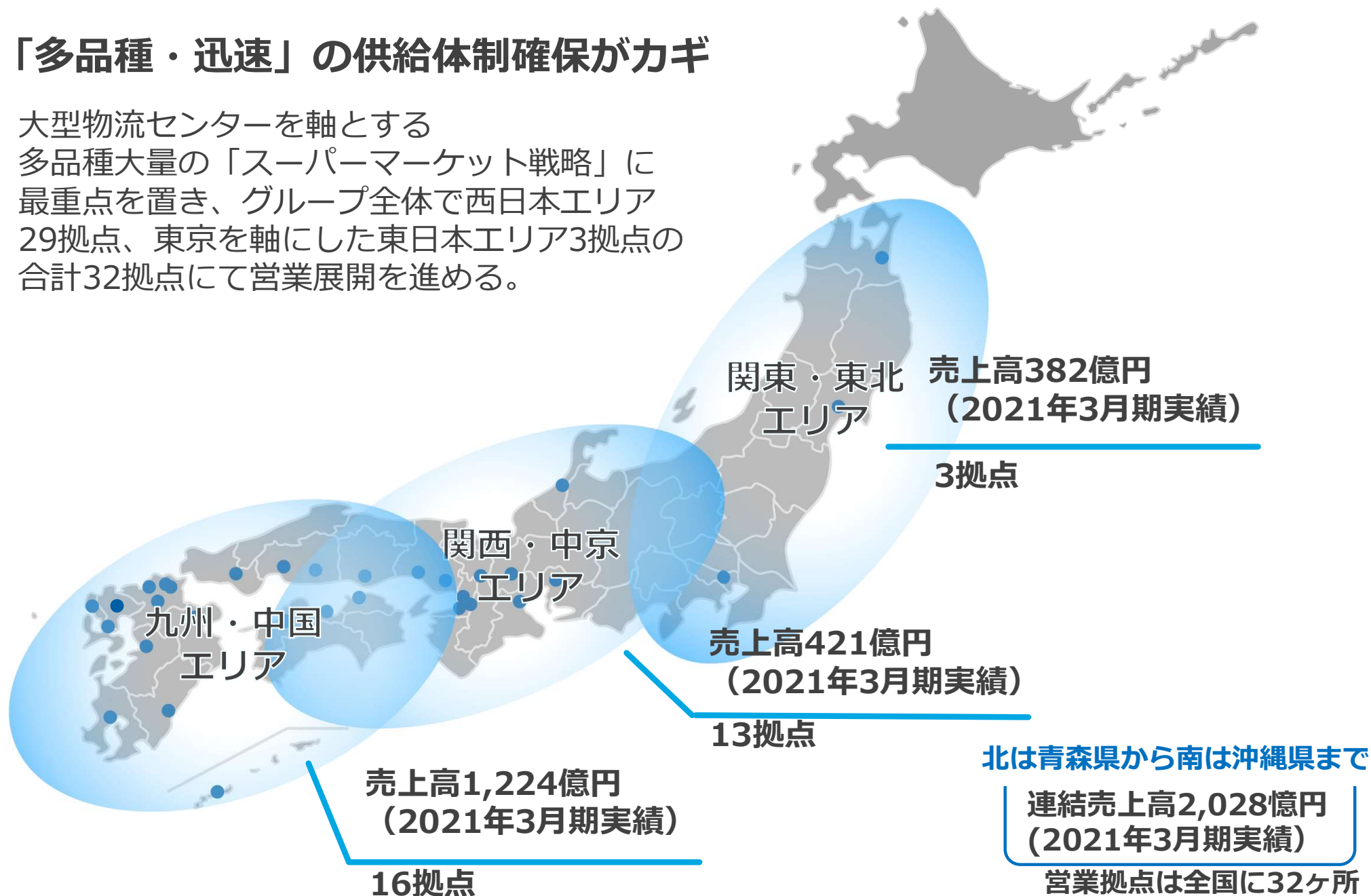
加工後の
(切断・穴あけ後)
完成品

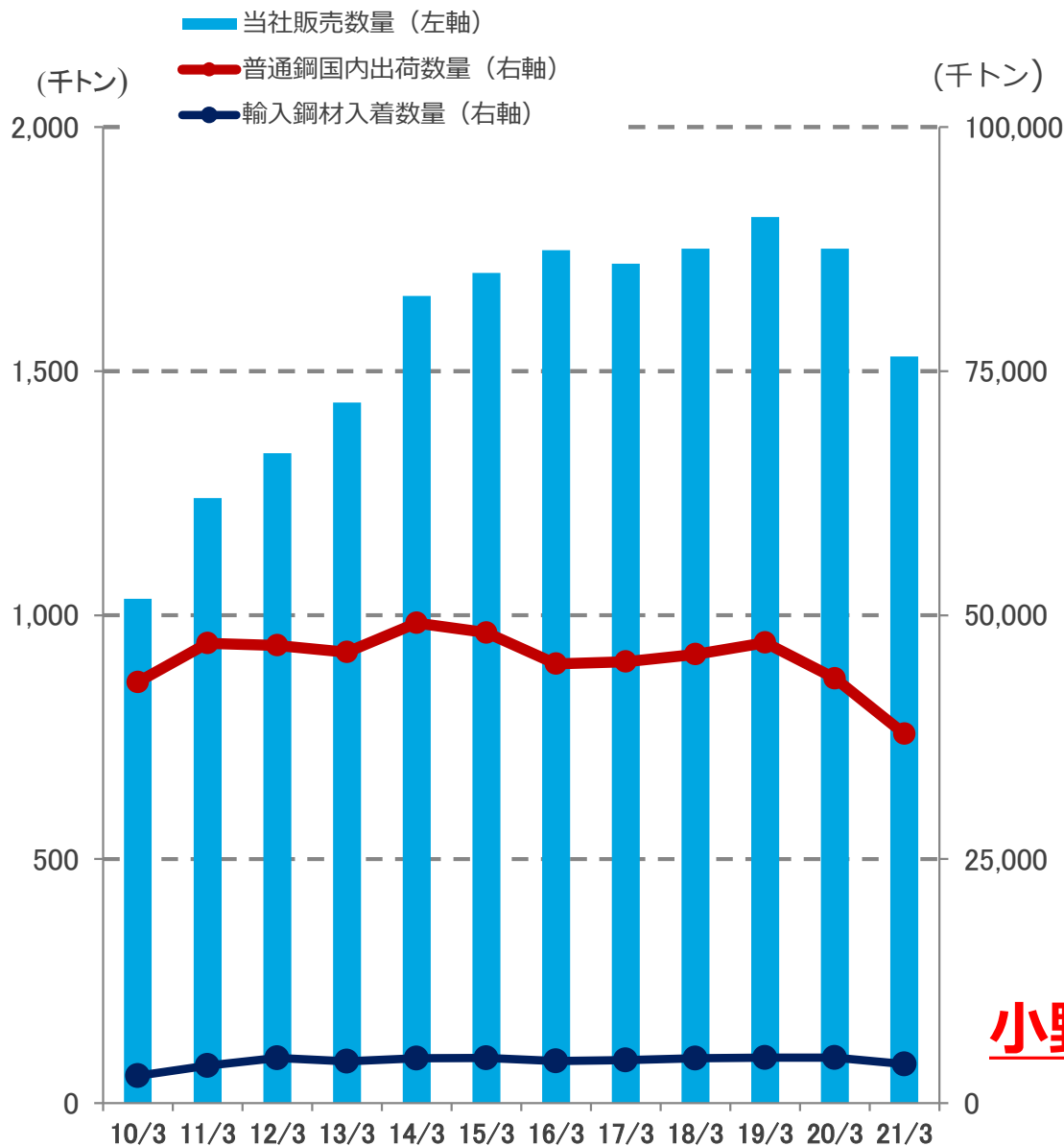




「多品種・迅速」の供給体制確保がカギ

大型物流センターを軸とする
多品種大量の「スーパーマーケット戦略」に
最重点を置き、グループ全体で西日本エリア
29拠点、東京を軸にした東日本エリア3拠点の
合計32拠点にて営業展開を進める。





※日本鉄鋼連盟資料より当社作成

市場との比較

- 普通鋼国内出荷数量は、近年横ばいの傾向にある中、当社の販売数量は順調に増加
- 全国の同業者約700社の中でトップシェアながら現在3%程度
今後もエリアを拡大し、販売数量を伸ばす

今後人口減少等により市場は縮小していくことが予想されるが、

小野建の強みを活かして勝ち残りへ

● 付加価値の向上の為、加工設備の拡充と物流センター新增設の促進

- 物流センターの新增設により加工設備の充実ならびに在庫の拡充をはかり、ユーザーニーズに即応する体制作りを目指す
- 付加価値を高めるため加工商品販売に注力し、同販売比率を高め競争優位性の確立を図る
それにより、収益性を向上させ、市況の変動に左右されにくい安定した収益体制を目指す
- 条鋼類のみならず鋼板類の加工も増強

● 工事請負の拡大

- 鉄骨加工業者とのネットワーク構築の推進
- 施工管理者の育成強化
- 技術集団(職人等)の育成強化
- 工事請負工種の拡大



競争優位性の確立と収益向上を目指す



- 営業車のエコカー導入、倉庫の屋根にソーラーパネル設置によるCO₂排出量の削減



- 納品書電子化による紙の使用量削減

- 産休、育休、時短勤務等の利用によるワークライフバランスの充実



- 年1回の安全大会開催
- 社内相談窓口設置
- 企業版ふるさと納税による地域貢献

- コンプライアンスマニュアルの策定
- 社内通報窓口設置